

ユニセフ「子どもにやさしいまち」づくりの 社会的背景とその特質

The Background and the Features of
UNICEF “Child Friendly Cities”

内 田 塔 子
UCHIDA Toko

要旨

本稿は、1989年に国連で子どもの権利条約が採択されて以後、どのような社会的背景と国際的議論の展開のなかで、ユニセフが「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities)を提唱してきたのか、また条約を実現する「子どもにやさしいまち」の全体像を明らかにすることを目的とした。

その結果、「子どもにやさしいまち」づくりが提唱されてきた社会的背景には、世界規模の急激な都市化の進行および都市人口の爆発的増加と、地方分権化の流れがあること、また「子どもにやさしいまち」づくりの特質として、第一に、子どもの生活全般を総合的に把握しようとするホリスティックな視点があること、第二に、子ども・保護者・地域の参加、とりわけ子どももまちづくりの主体、当事者として位置づけることを基盤としていることが明らかになった。

キーワード：国連・子どもの権利条約、ユニセフ、「子どもにやさしいまち」づくり、評価、子ども参加、総合性

はじめに

1989年に子どもの権利条約（以下、条約）が国連で採択されてから、条約を批准した世界のほとんどの国¹⁾は、条約が保障する子どもの権利を国内で実現することが求められている。そのためには、国レベルでの取り組みを推進していくと同時に、子どもと子育て家庭の生活に直接的に大きな影響を与える地方レベルでの取り組みの進展が必要不可欠であることから、条約が保障する子どもの権利を実現するまちづくりのあり方が世界共通の関心事となってきた。このような流れのなかで1996年からユニセフが提唱してきたのが「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities)づくりである。「子どもにやさしいまち」とは、前述のように、条約が保障する子どもの権利を実現するまちのことであり、「子どもにやさしいまち」をつくることは、地方が先頭に立って条約を実現していくプロセスであるとされる。

ユニセフはその後2004年に「子どもにやさしいまち」づくりを推進するための行動枠組を示した。これは現在、英語・スペイン語・イタリア語・アラビア語に翻訳されて世界中に広まっており、この行動枠組に則ってまちづくりを推進している国は、ユニセフがホームページ上で紹介しているだけでも、日本を含む54カ国を数えている。

そこで本稿は、ユニセフ「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities)づくりに焦点をあて、

条約採択後、どのような社会的背景と国際的議論の展開のなかで、「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities) が提唱されてきたのか、また、ユニセフが打ち出す「子どもにやさしいまち」の具体的内容とその特質を明らかにすることを目的とする。研究方法としては、子ども (children)、都市 (cities)、地方自治体 (local governments, local authorities)、環境 (environment) をキーワードに、条約採択以後、条約の実現に向けて開催されてきた国連の諸会議やその他の国際会議を概観し、会議で採択された成果文書およびユニセフ刊行資料を分析することとした。

1. 「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities) づくりの社会的背景

「子どもにやさしいまち」づくりが、条約採択以降今日にいたるまで、これほど各国で注目されるようになってきた背景には、①世界規模の急激な都市化の進行および都市人口の爆発的増加と、②地方分権化の流れがある。

今日、世界の全人口の半数以上が都市部に住み、さらにこの先数十年の間に、開発途上国において前例のない規模で都市化が進むといわれている。特にアジアとアフリカでは2000年から2030年までの間に都市人口が現在の2倍になると予測されている²⁾。これは当然のことながら都市部に住む子どもが急増することを意味する。急激な都市化が進む開発途上国では、都市の環境整備が急増する都市人口に追いつかず、環境破壊や貧困が進行して都市の一部がスラム化し、劣悪な環境下で生活を余儀なくされる子どもが増加している。そのため、子どもはホームレス、孤児、公害、病気、衛生設備の欠如、虐待や搾取、不就学や不就労といった問題に直面している。一方先進国においても、いじめ・不登校・虐待が増加したり、子どもが自然とふれあえる場所、子どもが安全に遊べる場所が不足したりするなど、子どもが直面する問題は多い。このような社会的背景から、開発途上国においても先進国においても、まちづくりのなかで子どもの問題に対処していくことが喫緊の課題となり、「子どもにやさしいまち」づくりに対する関心が世界的に高まった。

そのような社会的背景にぐわえて、世界的に分権化が進行し、地方への権限委譲が促進され、今まで以上に各国における地方の責任が増大したことで、条約が批准国に求める子どもの権利保障の実質的担い手として、都市・まちがより一層期待されるようになったことも、「子どもにやさしいまち」づくりに関心が集まった背景にあるといえる。

このような社会的背景から、「子どもにやさしいまち」づくりの取組が各国で次々と始まることとなった。

2. 「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities) づくりにいたる国際的議論の展開と内容

まず条約採択の翌年の1990年に、ユニセフ主催で「子どものための世界サミット」(World Summit for Children) が開かれた。サミットには、世界71カ国の元首・首脳が参加し、子どもの保健・栄養・教育・安全な水と衛生設備へのアクセスに関して、条約採択後10年間で達成すべき目標についてが話し合われ、そこで取りまとめられた協議内容は「子どもの生存・保護・発達に関する世界宣言を実施

するための行動計画」(Plan of Action for Implementing the World Declaration on the Survival, Protection and Development of Children in the 1990s)として採択された。このなかで、設定された目標を達成するためには、自治体やNGO等が積極的な役割を果たすことが奨励され、それを国が支援すべきであることが強調された。このように、条約採択の翌年から、子どもの権利実現のためには地方レベルの取り組みが重要であることが挙げられていた。

その2年後の1992年には、「環境と開発に関する国連会議」(UN Conference on Environment and Development [UNCED])で、環境と開発といった地球規模のテーマが議論されるなかで、子どもは、世界人口の多くを占めること、また未来の地球を保護する責任を継ぐ存在であると認識され、環境の悪化は子どもに直接的に影響があることから、政策や戦略のなかに子どもを明確に位置づけ、子どもの意見も政策や戦略に反映させる必要があることが協議され、採択された行動計画「アジェンダ21」(Agenda 21)に明記された³⁾。ここで、地球環境を保護しながら持続可能な開発をすすめていく上で、子どもも主体と位置づけられ、子ども参加の必要性が示された。

前述のような国際会議での議論の進展とともに、条約を実現するまちづくりや、まちづくりのなかで子どもをどのように位置づけるのかについての関心が世界的に広がるなかで、1996年に開かれた「第2回国連人間居住会議」(UN Habitat II Conference)⁴⁾において、ユニセフが「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities)についての声明を発表することとなった。声明では、都市の環境整備について述べるなかで、①都市の危機は子どもの危機であること ②子どものウェルビーイング(well-being)は、健康な居住環境、民主主義社会、よりよい地方自治の究極の指標であること ③都市の居住環境を「子どもにやさしいまち」に変えることは、すべての人にとってのよりよい世界を築くことになることが強調された。この声明文によってユニセフは、まちづくりを協議する際には子どもを中心に置くべきであることを世界に向けて発信し、この年以降、「子どもにやさしいまち」づくりを推進するための具体的な取り組みに着手していくことになる。

さらに2002年には、1990年に開催された「子どものための世界サミット」(World Summit for Children)のフォローアップをする目的で、「国連子ども特別総会」(UN General Assembly's Special Session on Children)が開催された。そこで取りまとめられた成果文書「子どもにふさわしい世界」(A World Fit for Children)では、①自治体が行動計画の実施における主要なパートナーの1つであること ②自治体とその指導者は、あらゆるレベルのパートナーシップの強化を通じて子どもを課題の中心に置き、子どもの生活を向上させることが可能であること ③特別総会に参加した政治家、子ども、NGO関係者は、家庭内・学校・地域・国レベルにおいて、子どもに関わる事柄の決定過程に子どもが意味ある参加をすることを促進するためのプログラムを進めるよう努めることが確認されている。ここで、条約を実現できるよりよい世界をつくるためには、地方が重要であること、また、まちづくりの中心に必ず子どもを置くこと、さらに、まちづくりのなかで子どもにかかわることについては子ども参加を促進し、子どもの意見を反映すべきであることがより明確化された。

このような理念的な議論が展開されると同時に、各国で「子どもにやさしいまち」づくりの取り組みが進むなかで、より実践的で具体的な議論も展開されるようになる。最初は、非公式の実践交流からはじまり、それが徐々に「子どもにやさしいまち」づくりに取り組む地域的、さらに国際的ネットワークを形成するまでに発展していくこととなった。

例えば、1992年にダカール（セネガル）で第1回、1993年にメキシコシティ（メキシコ）で第2回、1994年にパリ（フランス）で第3回が開催された『『子どもの擁護者としての市長』国際会議』（International Colloquium of Mayors as Defenders of Children）では、アフリカ・ヨーロッパ・オセアニア地域から市長が多数参加し、市長とは条約を実現するために最前線に立つ存在であるという共通認識のもと、子どもの権利を実現する「子どもにやさしい」まちづくりのための実践交流がなされた。

さらに、1997年にはアクラ（ガーナ）で「アフリカの子どもにやさしいまちづくりにむけた国際ワークショップ」(International Workshop on Africa's Urban Poor Child: Towards African Child-Friendly Cities) が行われたり、1997年から2000年まで毎年イタリア国内で「国際子どもにやさしいまちフォーラム」(International Child Friendly City Forum) が開催されたりする等、世界各地の取り組みについての情報交換と実践的議論が進められた。

また2002年から現在に至るまで、「子どもにやさしいまちヨーロッパネットワーク」(EUROPEAN NETWORK OF CHILD FRIENDLY CITIES) が中心となり、2年に1度のペースで「都市における子ども」国際会議（Child in the City）が開催され、自治体関係者、ユニセフ、研究者、NGO等が参加し、「子どもにやさしいまち」づくりの実践交流が行われている⁵⁾。例えば2010年の第5回会議では、①評価ツール ②参加 ③貧困 ④遊ぶ権利の4つのテーマについて、2012年の第6回会議では、①健康 ②世代間交流 ③子どもの権利 ④遊びの権利の4つのテーマについて、世界各地の取り組みが紹介され、活発な議論が展開された。

以上見てきたように、条約採択から現在にいたるまで、「子どもにやさしいまち」づくりに関わる国際的議論は、前述のような国際会議を中心に継続的に行われ、理論的にも実践的にも深められてきた。条約が子どもに保障する権利を実現していくために、これらの議論のなかで強調されてきたことは、①子どもが日常生活を送る「地方」が重要であること、②まちづくりの中心に子どもの問題を明確に位置づける必要があること、③子どもと子どもを取り巻く問題を解決していくためには、子ども参加を促進し、子どもの意見を反映していくことが求められるということであった。なかでも、とりわけ子ども参加が強調されるのは、条約がそれまでの子ども観を転換し、子どもの最善の利益を保障していくためには、子どもを保護する対象としてだけでなく、権利行使の主体と位置づけ、子どもの意見を尊重していくべきであるとする条約の基本理念がふまえられているからである。この「子ども参加」こそが、「子どもにやさしいまち」づくりの核になるところであり、次項で見ていくユニセフ「子どもにやさしいまち」づくりにおける中心的要素として強調されていくこととなる。

3. 「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities) の定義と構成要素

「子どもにやさしいまち」づくりの理念が広まるにしたがって、『『子どもにやさしいまち』とは具体的にどのようなまちのことをいうのか』といった声が世界的に高まった。このような状況を受けてユニセフは、まず2000年にイタリア・フィレンツェにあるユニセフ・イノチェンティ研究所 (UNICEF Innocenti Research Centre)⁶⁾に「子どもにやさしいまち事務局」(CFC Secretariat) を設置し、ここを拠点に「子どもにやさしいまち」づくり研究を進め、ウェブサイト⁷⁾を通じて、「子どもにやさ

しいまち」づくりに関する情報発信を始める。そして2004年に『『子どもにやさしいまちづくり』のための行動枠組』（“BUILDING CHILD FRIENDLY CITIES—A Framework for Action”）⁸⁾を公表し、条約を批准した国の各自治体には「子どもにやさしいまち」づくりを推進する責任があるとしたうえで、「子どもにやさしいまち」を定義し、自治体が取るべき道筋を提示した。この行動枠組から、ユニセフの提唱する「子どもにやさしいまち」の全体像をうかがうことができる。

行動枠組によれば、「子どもにやさしいまち」は、条約の一般原則、すなわち「第2条 差別の禁止」「第3条 子どもの最善の利益」「第6条 生命への権利 生存・発達の権利」「第12条 意見表明権」が子どもに保障されていることを基盤とし、条約を地方レベルで実施するために、自治体の政策、法律、計画、予算に子どもを明確に位置づけているまちを指すとしている。そして具体的には、以下に挙げる権利を子どもに保障するまちであるとしている⁹⁾。

- ①まちについての決定に影響を及ぼす権利
- ②自分たちが望むまちのあり方について意見を表明する権利
- ③家庭・コミュニティ・社会生活に参加する権利
- ④保健ケア・教育・住居といった基本的サービスをうける権利
- ⑤安全な水を飲み、適切な衛生設備にアクセスする権利
- ⑥搾取・暴力・虐待から保護される権利
- ⑦子どもだけで道を安心して歩ける権利
- ⑧友だちと会い、遊ぶ権利
- ⑨植物や動物のための緑のスペースをもつ権利
- ⑩汚染されていない環境で暮らす権利
- ⑪文化的・社会的イベントに参加する権利
- ⑫民族的出身、人種、所得、ジェンダー、障害にかかわらず、すべてのサービスにアクセスできる
平等な市民でいる権利

さらにユニセフは、前述の権利を子どもに保障するまちづくりを進めるためには、以下に挙げる9つの要素（Building blocks）が必要であるとしている¹⁰⁾。

1. 子ども参加の保障

子どもに影響する問題に子どもが積極的に関わることを促進すること、また子どもの意見を聴き、決定過程で子どもの意見を考慮すること。

2. 子どもにやさしい法的枠組みをもつこと

常に子どもの権利を守り促進する立法、枠組、手続きをもつこと。

3. まち全体の子どもの権利戦略を策定すること

条約に基づいた「子どもにやさしいまち」をつくるための詳細で包括的な戦略やアジェンダを進展させること。

4. 子どもの権利部局を作ること、あるいは調整するしくみをもつこと

自治体において、子どもの視点を優先的に考慮する常設の組織を発展させること。

5. 子どもの影響評価を保障すること

子どもに関する法律、政策、実践の影響について事前・事中・事後に評価する体系的なプロセスを保障すること。

6. 適切な子ども予算を確保すること

子どものための適切な財源投入と予算分析を確保すること。

7. まちの子ども白書が定期的に出されることの保障

子どもと子どもの権利についての白書において十分なモニタリングとデータ集計を確保すること。

8. 子どもの権利を周知すること

おとなや子どもに子どもの権利を周知すること。

9. 独立した子どもアドボカシーをもつこと

子どもの権利を促進するために、NGOを支援すること、また独立した人権機関—子どもオンブズパーソンや子どもコミッショナー—を発展させること。

なかでも上記9つの要素のうち「1. 子ども参加の保障」はまちづくりの全プロセスと他のすべての要素にとっての基本とされ、子どもがまちづくりの主体、当事者として位置づけられている。

ユニセフは、条約を実施する「子どもにやさしいまち」を以上のように定義し、自治体に対して「子どもにやさしいまち」の全体像と構成要素を明示した。「子どもにやさしいまち」とは、国によって子どもの置かれている環境は違っても、それぞれの状況下で、条約で規定されている最低限の権利を子どもに保障する体系的な仕組みを整備するまちのことである。

4. 「子どもにやさしいまち」(Child Friendly Cities) づくりの評価

世界各地で「子どもにやさしいまち」と自称する取組が増えてくるにしたがって、次にユニセフに求められたのが、「子どもにやさしいまち」づくりを評価する基準や方法の開発であった。2004年に発表された行動枠組が示す「子どもにやさしいまち」づくりを実際に進めていく際、家庭・学校・地域において子どもにどのようなことが保障されていることが「子どもにやさしい」と言えるのか。また、自治体が「子どもにやさしいまち」づくりを進めていく際、どのように進捗状況を把握し、そこからさらなる施策の推進に活かしていけばいいのか。このようなニーズに応えるために、ユニセフ・イノチェンティ研究所は、2008年から各国のユニセフ関係者や研究者、実践家とともに「子どもにやさしいまち」づくりの評価に関する研究を本格的にすすめ¹¹⁾、2009年から2010年にかけて実施された9ヶ国におけるパイロット調査を経て¹²⁾、2011年に評価ツール (Self-Assessment Tool) をウェブサイトで公開した¹³⁾。

この評価ツールはチェックリスト形式で、調査の専門家でなくても使うことができるようにデザインされており、地域に住む子どもやおとなが、ファシリテーターの支援のもとにグループディスカッションを行いながら直接的に評価に関与する点が最大の特徴となっている。子ども用は、8-12歳用と13-18歳用、保護者用は、0-7歳の子どもの保護者用、8-12歳の子どもの保護者用、13-18歳

の子どもの保護者用があり、その他、地域サービス提供者・子ども擁護者用（Community Service Providers and Child Advocates）、さらに自治体の自己評価用の評価ツールが設計されている。なお、この評価ツールは、読み書き能力のある地域や都市だけでなく、読み書き能力の低い地域や都市で使うことも想定しているため、直感的に内容を理解できるよう、各質問項目に内容を表す挿絵を入れるなどの工夫がされている¹⁴⁾。

子ども用、保護者用、地域サービス提供者・子ども擁護者用の質問項目は、ほぼ同じ質問文が使用され¹⁵⁾、①遊びと余暇 ②参加とシティズンシップ ③安全と保護 ④健康と社会サービス ⑤教育資源 ⑥住居の6つの領域で構成されている。自治体用の質問項目は、①子どもに対する自治体全体の責務 ②個々の分野における子どもの権利の理解という2つの柱で構成されている。

以下において、ユニセフが提唱する「子どもにやさしいまち」は、家庭・学校・地域で子どもに具体的に何が保障されていることを評価し、それらは具体的に子どもの権利条約のどの条文に関わるのかを把握するために、子ども用、保護者用、地域サービス提供者・子ども擁護者用の調査票の質問項目を、6つの領域ごとに、条約条文にてらして見ていくこととする¹⁶⁾。（紙幅の都合上、自治体の自己評価用の調査票は割愛する。）

(1) 遊びと余暇

遊びと余暇については、前述の行動枠組の「友だちと会い、遊ぶ権利」「植物や動物のための緑のスペースをもつ権利」「文化的・社会的イベントに参加する権利」「民族的出身、人種、所得、ジェンダー、障害にかかわらず、すべてのサービスにアクセスできる平等な市民でいる権利」に関連する以下のような質問項目で構成されている。

指 標	子どもの権利 条約条文※	質問文 (子：子ども用 親：保護者用 地：地域サービス提供者/子ども擁護者用)
①遊んだりスポーツをしたりできる安全な場所へのアクセス	31	子) ——— 親) 子どもには、家の外で安全に遊べる場所がある 地) 子どもには、家の外で安全に遊べる場所がある 子) 私の地域には、私が遊びやスポーツをする場所がある 親) 私の地域には、私の子どもが遊びやスポーツをする場所がある 地) 地域には、子どもが遊びやスポーツをする場所がある 子) 私は、遊んだり休んだり、自分の好きなことをする時間が十分にある 親) 私の子どもは、遊んだり休んだり自分の好きなことをする時間が十分にある 地) 子どもは、遊んだり休んだり自分の好きなことをする時間が十分にある
②障害のある子どもにとっての遊び場の使いやすさ	23・31	子) 私の地域の遊び場は、身体的障害のある子どもにとっても使いやすい 親) 私の地域の遊び場は、身体的障害のある子どもにとっても使いやすい 地) 地域の遊び場は、身体的障害のある子どもにとっても使いやすいようにデザインされている
③緑に触れる機会があること	29	子) 私の地域には、私が自然に触れられる場所がある 親) 私の地域には、私の子どもが自然に触れられる場所がある 地) 地域には、子どもが自然に触れられる場所がある

④文化的多様性が尊重されていること	13・29・30・31	子) 私は、自分とは異なる文化や宗教のお祭りやイベントに参加したり見たりする 親) 私の子どもは、自分とは異なる文化や宗教のお祭りやイベントに参加したり見たりする 地) 子どもは、自分とは異なる文化や宗教のお祭りやイベントに参加したり見たりする
⑤友達と交流する機会があること	29・31	子) 私は、学校外の他の子どもといっしょに、プロジェクトやグループやプログラムに参加している 親) 私の子どもは、学校外の他の子どもといっしょに、プロジェクトやグループやプログラムに参加している 地) 子どもは、学校外の他の子どもといっしょに、プロジェクトやグループやプログラムに参加している

※子どもの権利条約条文は参考資料①を参照のこと。

(2) 参加とシティズンシップ

参加とシティズンシップについては、前述の行動枠組の「まちについての決定に影響を及ぼす権利」「自分たちが望むまちのあり方について意見を表明する権利」「家庭・コミュニティ・社会生活に参加する権利」に関連する以下のような質問項目で構成されている。

指 標	子どもの権利条約条文※	質問文 (子:子ども用 親:保護者用 地:地域サービス提供者/子ども擁護者用)
①地域における意思決定への参加	12・13・14・15	子) 私は、地域を変えるプロジェクトを手伝っている 親) 私は、地域を変えるプロジェクトを手伝っている 地) 子どもや保護者は、自分たちの地域を変えるプロジェクトを手伝っている 子) 私は、地域の計画や決定に関与している 親) 私は、地域の計画や決定に関与している 地) 子どもや保護者は、地域の計画や決定に関与している 子) 行政は、私の生活や地域のことについて、私に意見を尋ねている 親) 行政は、私の生活や地域のことについて、私に意見を尋ねている 地) 行政は、子どもや保護者の生活や地域のことについて、子どもや保護者に意見を尋ねている
②子どもの権利についての情報へのアクセス	4・13・17・42	子) 私は、公共テレビやラジオで、子どもの権利について聞いたことがある 親) 私は、公共テレビやラジオで、子どもの権利について聞いたことがある 地) 子どもや保護者は、公共テレビやラジオで、子どもの権利について聞いたことがある
③インターネットへのアクセス	13・17	子) 私は、インターネットにアクセスできて、私の地域を越えたところで起こっていることとつながっていると感じられる 親) 私の子どもは、インターネットにアクセスできて、私の地域を越えたところで起こっていることとつながっていると感じられる【0-7歳の子どもの保護者を除く】 地) 子どもは、インターネットにアクセスできて、地域を越えたところで起こっていることとつながっていると感じられる
④子ども中心の予算	4	子) 私は、子どものためのプログラムやサービスのための予算について、意見をいっている【13-18歳の子どものみ】 親) 私は、子どものためのプログラムやサービスのための予算について、意見をいっている 地) 子どもや保護者は、子どものためのプログラムやサービスのための予算について、意見をいっている

※子どもの権利条約条文は参考資料①を参照のこと。

(3) 安全と保護

安全と保護については、前述の行動枠組の「搾取・暴力・虐待から保護される権利」「子どもだけで道を安心して歩ける権利」「民族的出身、人種、所得、ジェンダー、障害にかかわらず、すべてのサービスにアクセスできる平等な市民でいる権利」に関連する以下のような質問項目で構成されている。

指 標	子どもの権利 条約条文※	質問文 (子：子ども用 親：保護者用 地：地域サービス提供者/子ども擁護者用)
①地域における移動の安全性（徒歩、自転車、公共交通機関利用）	6・24・27	<p>子) 私は、安心してバスやその他の公共交通機関をつかえる 親) 私の子どもは、安心してバスやその他の公共交通機関をつかえる 【0－7歳の子どもの保護者を除く】 地) 子どもは、安心してバスやその他の公共交通機関をつかえる</p> <p>子) 私は、地域で安心して歩いたり自転車に乗ったりできる 親) 私の子どもは、地域で安心して歩いたり自転車に乗ったりできる 【0－7歳の子どもの保護者を除く】 地) 子どもは、地域で安心して歩いたり自転車に乗ったりできる</p>
		<p>子) 私は、ほかの子どもからいじめられることなく安心していられる★ 親) 私の子どもは、ほかの子どもからいじめられることなく安心していられる 地) 私の子どもは、ほかの子どもからいじめられることなく安心していられる</p> <p>子) 私は、暴力や虐待（言葉による、身体的、性的）をうけていない★ 親) 私の子どもは、暴力や虐待（言葉による、身体的、性的）をうけていない 地) 子どもは、暴力や虐待（言葉による、身体的、性的）をうけていない</p> <p>子) 私は、知らない人に連れ去られないよう守られていると感じる★ 親) 私の子どもは、知らない人に連れ去られないよう守られていると感じる 地) 子どもは、知らない人に連れ去られないよう守られていると感じる</p> <p>子) 私は、インターネットを使うことのリスクについて知っている 親) 私の子どもは、インターネットを使うことのリスクについて知っている 地) 子どもは、インターネットを使うことのリスクについて知っている</p>
③虐待や暴力の被害に対応するサービスやカウンセラーを利用できること	6・18・19・27・34・35・36・37・38・39	<p>子) 危険を感じたら、どこに危険を知らせて助けを求めればいいのか知っている 親) 私の子どもが危険を感じたら、私は、どこに危険を知らせて助けを求めればいいのか知っている 地) 危険を感じたら、子どもや保護者は、どこに危険を知らせて助けを求めればいいのか知っている</p> <p>子) 虐待や暴力のことについて自由に話せる家族以外のおとながいる★ 親) 私の子どもには、虐待や暴力のことについて自由に話せる家族以外のおとながいる 地) 子どもには、助けを得るために、虐待や暴力のことについて自由に話せる家族以外のおとながいる</p>

④麻薬からの保護	33	子) 私は、地域で麻薬にふれることはない 【13-18歳用のみ】 親) 私の子どもは、地域で麻薬にふれることはない 地) 子どもは、地域で麻薬にふれることはない
⑤犯罪・紛争の発生	19・34・35・38	子) 私は、暴力団や武装集団から守られていると感じる★ 親) 私の子どもは、暴力団や武装集団から守られていると感じる 地) 子どもは、暴力団や武装集団から守られていると感じる
⑥家庭で暮らせない子どものための代替的養護を利用できること	9・10・11・18・20・21	子) —— 親) —— 地) 家族と離れている子どもは、代替的な家庭的養護を選択できる
⑦子どもにやさしい司法へのアクセス	37・40	子) もし私が法的トラブルにあったら、私はおとなから独立した司法制度にアクセスできる★ 【13-18歳用のみ】 親) もし私の子どもが法的トラブルにあったら、子どもはおとなから独立した司法制度にアクセスできる 【13-18歳の子どもの保護者用のみ】 地) もし子どもが法的トラブルにあったら、子どもはおとなから独立した司法制度にアクセスできる
⑧環境破壊の危険性や自然災害への対策の有無	6・25・27	子) もし私の地域で災害があったら、私はどうすればいいか知っている 親) もし地域で災害があったら、私の子どもはどうすればいいか知っている 【0-7歳の子どもの保護者を除く】 地) もし地域で災害があったら、子どもはどうすればいいか知っている
⑨働いている子どもの仕事が身体に有害でなく、学校と両立できること	32	子) 私がしている仕事は、学校と両立できる★ 親) 私の子どもがしている仕事は、学校と両立できる 【0-7歳の子どもの保護者を除く】 地) 子どもがしている仕事は、学校と両立できる 子) 私がしている仕事は、健康上安全上の危険がない★ 親) 私の子どもがしている仕事は、健康上安全上の危険がない 【0-7歳の子どもの保護者を除く】 地) 子どもがしている仕事は、健康上安全上の危険がない
⑩家に住んでいない子どもや学校に行っていない子どもがサービスを利用できること	6・20・26・28・29	子) 地区には、学校教育をうけられる場所がある 【家に住んでいない子ども・学校に行っていない子どものみ】 親) —— 地) 地区には、学校に通うことができない子どもが代替的な教育をうけられる場所がある 子) 私は、どこで食料を得て、シャワーを浴び、眠ればいいのか知っている 親) —— 地) 家に住んでいない子どもが、どこで食料を得て、シャワーを浴び、眠ればいいのか知っている
⑪多様性（人種、宗教、国籍、文化、障害）を尊重していること、差別がないこと	2・12・13・14・30	子) 私の地域では、子どもは、人種・宗教・国籍・文化・障害にかかわらず、尊重されている★ 親) 私たちの地域では、子どもは、人種・宗教・国籍・文化・障害にかかわらず、尊重されている 地) 私たちの地域では、子どもは、人種・宗教・国籍・文化・障害にかかわらず、尊重されている

※子どもの権利条約条文は参考資料①を参照のこと。

★：この設問は、グループディスカッションをせず、個別にアンケート回答するものとされている。

(4) 健康と社会サービス

健康と社会サービスについては、前述の行動枠組の「保健ケア・教育・住居といった基本的サービスをうける権利」「安全な水を飲み、適切な衛生設備にアクセスする権利」「汚染されていない環境で暮らす権利」に関連する以下のような質問項目で構成されている。

指 標	子どもの権利 条約条文※	質問文 (子：子ども用 親：保護者用 地：地域サービス提供者/子ども擁護者用)
①保健施設を利用できること	6・24・27	<p>子) 私の地域には、健康診断に行ったり、病気になったときに診てもらえる場所がある</p> <p>親) 私の地域には、健康診断に行ったり、子どもが病気になったときに診てもらえる場所がある</p> <p>地) 地域には、保護者や子どもが健康診断に行ったり、病気になったときに診てもらえる場所がある</p> <p>子) ———</p> <p>親) 私の子どもがケガをしたり重い病気になった時に、近くにあって利用できる救急医療施設がある</p> <p>地) 子どもがケガをしたり重い病気になった時に、保護者が簡単に行って利用できる救急医療施設がある</p>
②出生登録サービスへのアクセス	7・8	<p>子) ———</p> <p>親) 子どもは出生登録される 【0－7歳の子どもの保護者のみ】</p> <p>地) 子どもは出生登録される</p>
③保育施設／サービスを利用できること	6・18・26	<p>子) ———</p> <p>親) もし私が必要なときは、私の子どもを世話してくれる場所や人がある 【0－7歳の子どもの保護者のみ】</p> <p>地) 必要なときは、子どもを世話してくれる場所や人がある</p>
④予防接種を利用できること	6・24・27	<p>子) ———</p> <p>親) 私の子どもは、必要なすべての予防接種を受けられる 【0－7歳の子どもの保護者のみ】</p> <p>地) 子どもは、必要なすべての予防接種を受けられる</p>
⑤社会サービスやカウンセリングサービスの利用とアクセス	5・18・24・26・27	<p>子) ———</p> <p>親) 私の子どもの健康や発達について、私がアドバイスをもらえる場所がある</p> <p>地) 子どもの健康や発達について、保護者がアドバイスをもらえる場所がある</p> <p>子) 私は、自分が行くことができるメンタルヘルスケアサービス（例えばカウンセリング）のことを知っている★ 【13-18歳用のみ】</p> <p>親) 私は、子どものためのメンタルヘルスケアサービス（例えばカウンセリング）のことを知っている</p> <p>地) 保護者や子どもは、子どものためのメンタルヘルスケアサービス（例えばカウンセリング）のことを知っている</p> <p>子) ———</p> <p>親) 食べ物がなく空腹の時に、家族が食べ物を得られる場所がある</p> <p>地) 食べ物がなく空腹の時に、家族が食べ物を得られる場所がある</p>
⑥リプロダクティブヘルスサービスやHIV/AIDSや性病の予防法を利用できること	6・24・27	<p>子) 必要なときは、私は、HIV/AIDSと安全なセックスについて、専門家から支援や指導をうけられる★ 【13-18歳用のみ】</p> <p>親) 必要なときは、私の子どもは、HIV/AIDSと安全なセックスについて、専門家から支援や指導をうけられる 【0－7歳の子どもの保護者を除く】</p> <p>地) 必要なときは、子どもも保護者も、HIV/AIDSと安全なセックスについて、専門家から支援や指導をうけられる</p>

⑦ゴミ山の有無と汚物処理システムの有無	6・24・27	子) 私の地域には、ゴミや汚れた水がない 親) 私の地域には、ゴミや汚れた水がない 地) 私の地域には、ゴミや汚れた水がない
		子) 私の地域には、安全でかんたんに使える公衆トイレがある 親) 私の子どもが、安全でかんたんに使える公衆トイレがある 地) 子どもが、安全でかんたんに使える公衆トイレがある
⑧大気汚染度合い	6・24・27	子) 私の地域の空気は、きれいで、煙がなく、悪臭もない 親) 私の地域の空気は、きれいで、煙がなく、悪臭もない 地) 地域の空気は、きれいで、煙がなく、悪臭もない

※子どもの権利条約条文は参考資料①を参照のこと。

★：この設問は、グループディスカッションをせず、個別にアンケート回答するものとされている。

(5) 教育資源

教育資源については、学校における、「家庭・コミュニティ・社会生活に参加する権利」「保健ケア・教育・住居といった基本的サービスをうける権利」「安全な水を飲み、適切な衛生設備にアクセスする権利」「搾取・暴力・虐待から保護される権利」「友だちと会い、遊ぶ権利」「民族的出身、人種、所得、ジェンダー、障害にかかわらず、すべてのサービスにアクセスできる平等な市民でいる権利」に関連する以下のような質問項目で構成されている。

指 標	子どもの権利 条約条文※	質問文 (子：子ども用 親：保護者用 地：地域サービス提供者/子ども擁護者用)
①学校（就学前、初等、中等教育）へのアクセス	28	子) 私は、学校にいつている 親) 私の子どもは、学校にいつている 地) 子どもは、学校にいつている 子) — 親) 私の子どもは、私の家から近いところにある手頃な学校へアクセスできる 地) 保護者は、家から近いところにある手頃な学校へアクセスできる 子) — 親) 学校の予定表は、私の家族にとって都合がよい 地) 学校の予定表は、家族にとって都合がよい 子) 私は、紙、鉛筆、本、その他学用品を買える 親) 私の子どもは、手頃な本、紙、鉛筆、その他学用品を買える 地) 子どもは、手頃な本、紙、鉛筆、その他学用品を買える
②ジェンダーの平等（平等の機会）	2・28・29	子) 学校で、男の子ども女の子も平等にあつかわれている 親) 私の子どもの学校では、男の子ども女の子も平等にあつかわれている 地) 学校で、男の子ども女の子も平等にあつかわれている
③子ども／教師の比率	28・29	子) 私は、必要なとき、先生に十分注意をはらってもらっている 親) 私の子どもは、必要なとき、先生に十分注意をはらってもらっている 地) 子どもは、必要なとき、先生に十分注意をはらってもらっている

④健康的な生活・環境・権利・リプロダクティブヘルスについての教育を利用できること	6・17・24・28・29	<p>子) 学校で私は、健康でいることについて学んでいる 親) 学校で私の子どもは、健康でいることについて学んでいる 地) 学校で子どもは、健康でいることについて学んでいる</p> <p>子) 学校で私は、どのように環境を保護するかを学んでいる 親) 学校で私の子どもは、どのように環境を保護するかを学んでいる 地) 学校で子どもは、どのように環境を保護するかを学んでいる</p> <p>子) 学校で私は、私の権利と子どもの権利条約について教えられた 親) 学校で私の子どもは、子どもの権利と子どもの権利条約について教えられた 地) 学校で子どもは、子どもの権利と子どもの権利条約について教えられた</p> <p>子) 学校で私は、安全なセックスについて教えられた【13-18歳用のみ】 親) 学校で私の子どもは、安全なセックスについて教えられた 地) 学校で子どもは、安全なセックスについて教えられた</p>
⑤子どもや保護者の意見の尊重	12・13・14・28・29	<p>子) 学校で先生は、私の意見を聞いてくれる 親) 学校で先生は、私の子どもの意見を聞いてくれる 地) 学校で先生は、子どもの意見を聞いてくれる</p> <p>子) 私は、学校の決定について意見をいう機会がある 親) 私は、学校の決定について意見をいう機会がある 地) 子どもや保護者は、学校の決定について意見をいう機会がある</p>
⑥多様性の尊重／差別がないこと	2・23・29・30	<p>子) 私の学校では、すべての子どもが、宗教・人種・国籍・文化にかかわらず、尊重されている 親) 学校では、すべての子どもが、宗教・人種・国籍・文化にかかわらず、尊重されている 地) 学校では、すべての子どもが、宗教・人種・国籍・文化にかかわらず、尊重されている</p> <p>子) 私の学校では、障害のある子どもも尊重され、平等にあつかわれている 親) 学校では、障害のある子どもも尊重され、平等にあつかわれている 地) 学校では、障害のある子どもも尊重され、平等にあつかわれている</p> <p>子) 私の学校は、障害のある子どもにとってつかいやすい 親) 学校は、障害のある子どもにとってつかいやすい 地) 学校は、障害のある子どもにとってつかいやすい</p>
⑦遊びやレクリエーションのための時間があること	31	<p>子) 私の学校では、友達と一緒に遊んだりスポーツをしたり休んだりして過ごす自由な時間がある 親) 学校では、私の子どもは、友達と一緒に遊んだりスポーツをしたり休んだりして過ごす自由な時間がある 地) 学校では、子どもが、友達と一緒に遊んだりスポーツをしたり休んだりして過ごす自由な時間がある</p>

⑧安全で守られた環境があること（いじめの有無／サポートしてくれる人（カウンセラー）へのアクセス／体罰の有無）	6・19・28・29	子) 私の学校には、安心して自分の悩みや気持ちを話せるおとながいる 親) 学校には、私の子どもが、安心して自分の悩みや気持ちを話せるおとながいる 地) 学校には、子どもが、安心して自分の悩みや気持ちを話せるおとながいる 子) 学校で、私は、懲戒されるとき、体罰をうけない 親) 学校で、子どもは、懲戒されるとき、体罰をうけない 地) 学校で、子どもは、懲戒されるとき、体罰をうけない 子) 私の学校では、子どもは、けんかしたりいじめられたりする危険なしに、お互いを尊重している★ 親) 学校で、私の子どもは、いじめがなく安心できる 地) 学校で、子どもは、けんかしたりいじめられたりする危険なしに、お互いを尊重している
⑨水へのアクセス（飲むため／洗うため）	6・24	子) 私の学校には、きれいな飲み水と洗うための水が十分にある 親) 学校で、私の子どもには、きれいな飲み水と洗うための水が十分にある 地) 学校で、子どもには、きれいな飲み水と洗うための水が十分にある
⑩トイレを利用できること	6・24	子) 私の学校には、たやすく安全に使えるきれいなトイレがある 親) 学校のトイレはきれいで、私の子どもは、たやすく安全に使える 地) 学校のトイレはきれいで、子どもは、たやすく安全に使える
⑪学校や地域における図書館へのアクセス	17	子) 私の地域や学校には、私が使っている図書館がある 親) 私の子どもは、学校や地域の図書館を使っている 地) 子どもは、学校や地域の図書館を使っている
⑫職業訓練／就業機会を利用できること	28・29	子) 私の学校や地域は、私の将来の仕事に関連した訓練プログラムを提供している【13-18歳用のみ】 親) 学校や地域は、私の子どもの将来の仕事に関連した訓練プログラムを提供している 地) 学校や地域は、子どもの将来の仕事に関連した訓練プログラムを提供している

※子どもの権利条約条文は参考資料①を参照のこと。

★：この設問は、グループディスカッションをせず、個別にアンケート回答するものとされている。

(6) 住居

住居については、前述の行動枠組の「保健ケア・教育・住居といった基本的サービスをうける権利」「安全な水を飲み、適切な衛生設備にアクセスする権利」「搾取・暴力・虐待から保護される権利」に関連する以下のような質問項目で構成されている。

指 標	子どもの権利条約条文※	質問文 (子：子ども用 親：保護者用 地：地域サービス提供者/子ども擁護者用)
①水へのアクセス（飲むため／洗うため）	6・24・27	子) 家に安全な飲み水が十分ある 親) 私の子どもは、家に安全な飲み水が十分ある 地) 子どもは、家に安全な飲み水が十分ある 子) 家に洗うための水が十分ある 親) 家に洗うための水が十分ある 地) 家に洗うための水が十分ある

②トイレを利用できること（屋内／屋外）	6・24・27	子) 家や家の近くに、私が見えるきれいなトイレがある 親) 家や家の近くに、私の子どもが見えるきれいなトイレがある 地) 家や家の近くに、子どもが見えるきれいなトイレがある
③安全な住居へのアクセス	27	子) ——— 親) 私たちには、買うことができ簡単に奪われない家がある 地) 家族には、買うことができ簡単に奪われない家がある
④適切な住宅水準	27	子) ——— 親) 私の家は、すべての気象条件に対応できる 地) 家は、すべての気象条件に対応できる
⑤室内の空気の質	6・24・27	子) 私の家の空気は、健康的で煙や汚染がない 親) 私の家の空気は、私の子どもにとって、健康的で煙や汚染がない 地) 家の空気は、子どもにとって、健康的で煙や汚染がない
⑥電気を利用できること	27	子) ——— 親) 私の家には、電気の明かりがある 地) 家には、電気の明かりがある
⑦世帯規模（十分なスペース）	27	子) ——— 親) 私の家には、子どもにとって十分なスペースがある 地) 家には、子どもにとって十分なスペースがある
⑧家での安全	6・19・27	子) 私は、家で安心できる★ 親) 私の子どもは、家で安心できる 地) 子どもは、家で安心できる

※子どもの権利条約条文は参考資料①を参照のこと。

★：この設問は、グループディスカッションをせず、個別にアンケート回答するものとされている。

以上が、自治体が「子どもにやさしいまち」であるかを、子ども、保護者、地域サービス提供者・子ども擁護者の視点から評価する具体的項目である。これらの多岐にわたる項目を包括的に子どもに保障するまちが、ユニセフが提起する「子どもにやさしいまち」であり、条約が保障する子どもの権利を実現するまちである。

5. 「子どもにやさしいまち」（Child Friendly Cities）づくりの意義と課題

本稿では、国連で子どもの権利条約が採択されて以後、ユニセフを中心として「子どもにやさしいまち」づくりが提唱・推進されてきた社会的背景と国際的議論の展開を概観し、「子どもにやさしいまち」づくりに求められる枠組と、まちづくりの各施策にかかわる詳細な評価項目を分析することで、条約を実現する「子どもにやさしいまち」の全体像を明らかにした。

そこで重視される視点は、第一に、子どもの生活全般を総合的に把握しようとするホリスティックな視点である。具体的には、自治体が子どもの育ちを保障するまちづくりを進めるうえで、母子保健・医療・教育・保育・福祉・都市計画といった各領域ごとに個別に施策を推進するのではなく、これらの領域全体を視野に入れた包括的な戦略を策定し、実行に移していくための法律の制定や施策の全体調整を行う組織の設置等を通じて総合性を確保することである。そして第二に、子どもの最善の利益を保障するまちづくりを推進するために、子どもと子どもの育ちに関わる人の意見を聴き反映する、子ども・保護者・地域の参加によるまちづくりの視点が求められていることである。

ユニセフ「子どもにやさしいまち」づくりの意義は、条約で保障される権利を基盤として、多岐にわたる子どもの権利がまちづくりのなかで一元化されたこと、また、従来、施策の対象・客体とされ

てきた子どもと子どもの育ちに関わるおとながまちづくりの主体として位置づけられ、子ども・保護者・地域の参加・意見の反映が、施策の推進上必要不可欠であることを明確化したことであった。

一方で課題もある。一番の課題は、とりわけ子どもをまちづくりの主体、当事者として位置づける「子ども参加」についての理解が進まないことである。子どもの権利条約は、その制定過程において、子どもの最善の利益を保障するためには、子ども自身の意見を尊重し反映していかなければならないとし、子どもを従来の保護する対象、客体と捉える見方から、参加する主体、権利行使の主体へと子ども観を一大転換し、一般原則の1つとして第12条の意見表明権を位置づけた。それをうけてユニセフの「子どもにやさしいまち」づくりも、「子ども参加」をまちづくりの基盤に置き、評価ツールにおいても子どもを評価する主体として位置づけた。しかしながら、まちづくりを推進するおとな側に、子どもを保護する対象としか見ない古い子ども観が根強くあると、まちづくりに「子ども参加」が位置づかず、条約の理念も「子どもにやさしいまち」づくりの理念も骨抜きになる可能性がある。たとえば条約を批准していたとしても、おとなの子ども観が転換していない国・自治体では、「子ども参加」の重要性と必要性の理解がされず、まちづくりに子どもの声が活かされる仕組みをつくることは極めて困難になる。条約を実現する「子どもにやさしいまち」の全体像への認識を深めた点で、ユニセフの「子どもにやさしいまち」づくりの提唱・推進・評価ツール開発の一連の動きは大変意義があるが、実際に各国の自治体やコミュニティが子どももまちづくりの当事者として位置づけた「子どもにやさしいまち」づくりを推進していくには、おとなの子ども観に根ざした大きな課題があるといっていよい。

おわりに

条約を実現する「子どもにやさしいまち」づくりを推進していくのが難しいのは、日本も例外ではない。日本においても自治体子ども施策は、長年、関係部署に分かれて個別に推進され、子どもを保護する対象として取り扱ってきた経緯があり、子どもをまちづくりの主体、評価の主体と位置づけ、総合的に子どもの権利保障を推進している自治体は、現在少しずつ増えつつあるものの数はまだ少ない。ユニセフ「子どもにやさしいまち」づくりは、まちづくりに関わるおとなに対して、従来の子ども観を、子どももまちづくりの当事者であり、評価する主体と見る新しい子ども観へと転換をせまるものであり、条約を実現するまちづくりを目指す自治体に対して重要な示唆を与えているといえる。日本も子どもの権利条約の一批准国として、条約を地方レベルで実現する「子どもにやさしいまち」づくりの推進が求められている。最後に、本研究の今後の課題として、ユニセフの提示する「子どもにやさしいまち」づくりのための行動枠組について、日本の自治体の実践例に照らしてその妥当性を検証し、さらなる考察を深めたい。

(本稿は平成22年度東洋大学海外特別研究による研究成果の一部である。)

注

- 1) 現在、子どもの権利条約を批准していない国は、アメリカとソマリアのみである。
- 2) UN Population Fund(UNFPA), *State of World Population 2007*, New York
- 3) United Nations Conference on Environment & Development, *AGENDA 21: CHILDREN AND*

YOUTH IN SUSTAINABLE DEVELOPMENT 1992.

- 4) 第1回は1976年に開催。
- 5) 開催地は、第1回：ブルージュ（ベルギー、2002年）、第2回：ロンドン（イギリス、2004年）、第3回：シュトゥットガルト（ドイツ、2006年）、第4回：ロッテルダム（オランダ、2008年）、第5回：フィレンツェ（イタリア、2010年）、第6回：ザグレブ（クロアチア、2012年）であった。
- 6) イノチェンティ研究所は1988年、ユニセフの研究機能を強化し、世界中の子どもの権利擁護を支援するために設立された。現在は、UNICEF Office of Researchの一部に位置づけられている。
- 7) <http://www.childfriendlycities.org/>（2012年10月31日アクセス）
- 8) UNICEF Innocenti Research Centre, *BUILDING CHILD FRIENDLY CITIES—A Framework for Action*, Florence, 2004.
- 9) 同上
- 10) 同上
- 11) Children's Environments Research Group (CERG) とユニセフ・イノチェンティ研究所がコーディネーターとなり、イノチェンティ研究所とChildwatch Internationalの共同で研究がすすめられた。
- 12) パイロット調査はブラジル、ドミニカ共和国、フランス、イタリア、ヨルダン、モロッコ、フィリピン、スペイン、スーダンで実施された。パイロット調査実施国は、子どもにやさしいまちづくりを支援する経験のある国の中から、地理的、社会経済的文脈を加味して抽出された。（The Children's Environments Research Group (CERG) and the Innocenti Research Centre (IRC), “*The Child Friendly Cities Research Program ---Summary and Update*” 2008）
- 13) <http://www.childfriendlycities.org/en/research/final-toolkit>（2012年10月31日アクセス）
- 14) The Innocenti Research Centre of UNICEF and Childwatch International (2011),
“*A Child Friendly Community Self-Assessment Tool for Children*”,
“*A Child Friendly Community Self-Assessment Tool for Adolescents*”, “*A Child Friendly Community Self-Assessment Tool for Primary School Parents*”,
“*A Child Friendly Community Self-Assessment Tool for Secondary School Parents*”,
“*A Child Friendly Community Self-Assessment Tool for Community Service Providers and Child Advocates*”
- 15) 質問項目は、子どもの年齢によって若干の違いがある。例えば、性教育に関する質問は、0－7歳の子どもの保護者用、8－12歳の子どもの保護者用、8－12歳の子どもの用には含まれていない。
- 16) “*A Facilitator's Guide to the Local Assessment of Children's Rights*” (pp.48-61) より作成。

【参照URL】

- ・ Agenda 21
<http://www.unep.org/Documents.Multilingual/Default.asp?documentid=52>
上記の中の
“CHILDREN AND YOUTH IN SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
<http://www.unep.org/Documents.Multilingual/Default.asp?DocumentID=52&ArticleID=73&l=en>
- ・ A World Fit for Children
http://www.unicef.org/specialsession/docs_new/documents/A-RES-S27-2E.pdf
- ・ “BUILDING CHILD FRIENDLY CITIES—A Framework for Action” (UNICEF Innocenti Research Centre, 2004)
<http://www.childfriendlycities.org/documents/view/id/66/lang/en>

- Child Friendly City Initiative
<http://www.childfriendlycities.org/en/overview/the-cfc-initiative>
- Child in the City
<http://www.childinthecity.com/>
- Final toolkit 2011(UNICEF Innocenti Research Centre／Childwatch International)
<http://www.childfriendlycities.org/en/research/final-toolkit>
<http://www.childwatch.uio.no/projects/activities/child-friendly-cities-and-communities-research-project/finaltoolkit2011.html>
- Mayors as Defenders of Children
<http://www.childfriendlycities.org/en/search-view?ProductID=63>
<http://www.childfriendlycities.org/en/search-view?ProductID=369>
- Plan of Action for Implementing the World Declaration on the Survival, Protection and Development of Children in the 1990s
<http://www.unicef.org/wsc/plan.htm>
- UN General Assembly's Special Session on Children
<http://www.unicef.org/specialsession/>
- UN Habitat II Conference
<http://www.unhabitat.org/>
- World Summit for Children
<http://www.unicef.org/wsc/>

(2012年10月31日アクセス)

【参考文献】

- UNICEF(1992) Convention on the Rights of the Child, New York: United Nations Publications.
- UNICEF(1997) *Children's Rights and Habitat: Working Towards Child Friendly Cities*, New York: UNICEF.
- UNICEF(2001) *Partnerships to Create Child Friendly Cities: Programming for Child Rights with Local Authorities*, New York: IULA/UNICEF
- UNICEF(2004) *Building Child Friendly Cities: A Framework for Action*, Florence: UNICEF Innocenti Research Centre.

【参考資料①】子どもの権利条約条文（国際教育法研究会訳の条文見出しを参照。）

※全54条から本稿に関連する条文を抜粋して掲載。

- 第2条 差別の禁止
- 第3条 子どもの最善の利益
- 第4条 締約国の実施義務
- 第5条 親の指導の尊重
- 第6条 生命への権利、生存・発達の確保
- 第7条 名前・国籍を得る権利、親を知り養育される権利
- 第8条 アイデンティティの保全
- 第9条 親からの分離禁止と分離のための手続
- 第10条 家族再会のための出入国
- 第11条 国外不法移送・不返還の防止
- 第12条 意見表明権
- 第13条 表現・情報の自由
- 第14条 思想・良心・宗教の自由
- 第15条 結社・集会の自由
- 第17条 適切な情報へのアクセス
- 第18条 親の第一義的養育責任と国の援助
- 第19条 親による虐待・放任・搾取からの保護
- 第20条 家庭環境を奪われた子どもの養護
- 第21条 養子縁組
- 第23条 障害児の権利
- 第24条 健康・医療への権利
- 第25条 医療施設等に措置された子どもの定期的審査
- 第26条 社会保障への権利
- 第27条 生活水準への権利
- 第28条 教育への権利
- 第29条 教育の目的
- 第30条 少数者・先住民の子どもの権利
- 第31条 休息・余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加
- 第32条 経済的搾取・有害労働からの保護
- 第33条 麻薬・向精神薬からの保護
- 第34条 性的搾取・虐待からの保護
- 第35条 誘拐・売買・取引の防止
- 第36条 他のあらゆる形態の搾取からの保護
- 第37条 死刑・拷問等の禁止、自由を奪われた子どもの適正な取扱い
- 第38条 武力紛争における子どもの保護
- 第39条 犠牲になった子どもの心身の回復と社会復帰
- 第40条 少年司法
- 第42条 条約広報義務

【参考資料②】(13-18歳子ども用調査票)

for adolescents

A CHILD FRIENDLY COMMUNITY SELF-ASSESSMENT TOOL FOR ADOLESCENTS

This tool is designed to assess the child friendliness of a community from the perspective of children aged 13 years to 18 years, or "adolescents". It asks questions about the context in which children grow, develop and experience their rights. As such, the tool is designed to supplement other data on children and their living conditions available to cities. Used in conjunction with the children's and parents' community assessment tool it can help guide the actions of communities and municipal authorities.

The section entitled "My Personal Life" should be completed in private and not discussed by the group because the items are more personal. Feel free to use the space at the end of each item to note down any comment or idea that may be relevant to the discussion. Further guidance on the use of this tool is provided in the "Facilitators Guidebook for Child Friendly Community Assessment".

1

for adolescents

SESSION PROFILE

Date			
Facilitator(s)			
Place/location of workshop			
Number of participants	Boys	Girls	Total
Area, or approximate locations, of the participant's homes			

2

for adolescents

KEY:

Scores:

	Never True
	Sometimes True
	Mostly True

Comments:

Use the comment box to make notes about any aspect of the process that may be important for the interpretation of the results (such as "boys had difficulty answering this question", or "girls are not treated the same way as boys" on this issue).







Practice Questions	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
1. I like sweets/candy					
2. I help out with chores at home					
3. I like it when it's raining					

3






for adolescents

My Play & Leisure	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
1. In my community I have places for play, games and sports					
2. I have enough time to play, rest and enjoy myself					
3. The places for play in my community can also be used by children with physical disabilities					
4. There are places in my community where I can be in contact with nature					
5. I participate in, or observe festivals and events of cultures and religions different from my own					
6. I participate in projects, groups or programs with other children or youth outside of school					



4

for adolescents					
My Participation & Citizenship	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
 1. I help with projects to change my community					
 2. I am involved in planning or decisions for the community					
 3. The government asks me my opinions about my life or my community*					
*City council, mayor, etc.					
 4. I have heard about children's rights on public television or radio					
 5. I have access to the Internet and feel connected to what happens beyond my community					
 6. I give my opinion about the budget for programs and services for children					





5

for adolescents					
My Safety & Protection	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
 1. I feel safe using buses or other public vehicles					
 2. It is safe for me to walk and cycle in my community					
 3. If I feel in danger, I know where to report it and get help					
 4. If there is a hazard in my community, I know what to do					
 5. I know about the risks of using the Internet					











NOTE: These items only apply to children not living at home or not attending school

My Safety & Protection	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
 1. There are places I can go for schooling in the area					
 2. I know where to go to get food, take a shower and sleep					

6










for adolescents					
My Health	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
 1. There is a place in my community I can go for health check-ups and when I am sick					
 2. There are public toilets I can use safely and easily in my community					
 3. My community is free of garbage and dirty water					
 4. The air in my community is clean, smoke-free and stench free					

7

for adolescents					
My Education	Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
 1. I go to school					
 2. Boys and girls are treated the same way in school					
 3. I can afford paper, pencils, books and other school supplies for school					
 4. I get enough attention from my teachers when I need it					
 5. In my school I learn about being healthy					
 6. In my school I learn how to protect the environment					
 7. In my school I have been taught what my rights and the Convention on the Rights of the Child					
 8. In school I have been taught about safe sex					
 9. My ideas are listened to by teachers in school					
 10. There is free time in my school to play games and sports, rest and spend time with friends					


8

for adolescents

My Education		Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
	11. There is enough good water for drinking and washing in my school					
	12. There is a clean toilet in my school that I can use easily and safely					
	13. In my school there are adults who I feel safe talking to about my problems and feelings					
	14. In my school all children are respected no matter what religion, color, nationality, or culture					
	15. In my school children with disabilities are respected and given equal treatment					
	16. In my community or school there is a library I use					
	17. At my school, I am disciplined without being physically hurt					
	18. I have opportunities to give my opinion about school decisions					
	19. My school or community offers programs that provide relevant training for my future work					










9

for adolescents

My Education		Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
	20. My school is accessible to children with disabilities					









10

for adolescents






My Personal Life		Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
(This section is completed privately and not discussed by the group)						
My Home						
	1. I have enough safe water to drink at home					
	2. I have a clean toilet I can use at home or nearby					
	3. I have enough water for washing at home					
	4. The air in my homes is healthy and it is free from smoke and pollution					
	5. I feel safe at home					
My Safety and Protection						
	6. I feel safe from being bullied by other children					
	7. I am free from drugs in the community					
	8. I feel protected from gangs/armed groups*					
*could be related to armed conflict						
	9. I feel protected from being taken away by a stranger					

11

for adolescents

My Personal Life		Never True	Sometimes True	Mostly True	Does Not Apply	Comments
(This section is completed privately and not discussed by the group)						
	10. I feel safe from violence and abuse*					
*Abuse could be verbal, physical or sexual						
	11. There are adults outside of my family who I can talk to freely about abuse or violence					
	12. In my community children are respected regardless of their color, religion, nationality, culture or disabilities					
	13. If I get in trouble with the law, I have access to a separate justice system from adults					
	14. The work I do allows me to go to school					
	15. The work I do is free of health and safety risks					
My Health						
	16. I know of mental health care services (such as counseling) I can go to					
	17. If needed, I can get support and orientation from professionals about HIV/AIDS and safe sex					

12

for adolescents						
My Personal Life <small>(This section is completed privately and not discussed by the group)</small>		Never True 	Sometimes True 	Mostly True 	Does Not Apply 	Comments
My Education						
	18. Children respect each other at my school without risk of being hassled or bullied					

13

The Background and the Features of UNICEF “Child Friendly Cities”

UCHIDA Toko

Abstract

This paper examines the social background and global exchange of opinions that prompted the UNICEF to propose the “Child Friendly Cities” concept following the adoption of the Convention on the Rights of the Child by the United Nations in 1989 and provide a holistic vision of “Child Friendly Cities” that should be realized through the implementation of the convention.

The findings show that rapid urbanization on a global scale, explosive growth of urban populations, and decentralization of power were major contributors to the social background that prompted the UNICEF to propose the “Child Friendly Cities” concept. In addition, the following two factors were identified as the primary features of the initiatives toward the “Child Friendly Cities” concept: (1) the adoption of a holistic view on various aspects of childhood in general and (2) the acknowledgement of the basic importance of participation by children, parents, community service providers, and child advocates, with particular emphasis on the roles of children as major participants in such initiatives.

Keywords: The UN Convention on the Rights of the Child, UNICEF, Child Friendly Cities, assessment, children’s participation, a comprehensive approach